

令和2年7月16日

令和2年度 第1回学校保健委員会

ごあいさつ

府立 茨木支援学校
准校長 山本 真澄

日本中の学校が新型コロナウイルスの影響で休校措置を取らざるを得なくなり、本校も昨年度3月2日からの本当に長い休校を経験しました。誰もが、このような事態が起こるとは予想もしなかった中、保護者の皆様には大変なご負担をおかけしたことをとても心苦しく思っています。また、児童・生徒の皆さんにとっては貴重な学校生活や学びの時間が奪われてしまったことが残念でなりません。

6月に入って分散登校から在校時間も次第に長くなり、22日から通常登校が始まりました。児童生徒の笑顔が戻り校内にみんなの声が溢れる毎日は、普通の日常のありがたさをしみじみと感じられます。現在は、手洗いを第一に検温、マスクやフェイスシールドなどを常備し、給食はみんなが同じ方向を向いてできるだけ話をしないなど制限の多い生活での教育活動となっています。

本校はもともと健康や安全に対する意識は高く、医療的ケアの必要な児童生徒が多い中で最大限の注意を払っての教育活動を行ってまいりました。今、さらに新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために、『新しい生活様式』が求められています。この『新しい生活様式』を教育活動にどう取り入れていくのかが、今日の課題であり、最も必要なことと考えます。また、7月12日から『大阪モデル』のステージがグリーンからイエローへ移行し、各地での学校での感染の報告が報道されるようになってきました。支援学校も例外ではなく、校内に感染者が出た場合の対応も必要になってきています。

このような中で教育活動をしっかりと継続発展させていくために、今回の学校保健委員会が意義あるものなるよう、皆様のご協力を切にお願い申し上げます。また、たくさんのアドバイスを頂けますように、どうぞよろしくお願いいたします。

令和2年7月16日

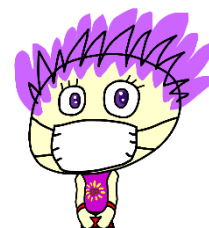
茨木支援学校
新型コロナウイルス感染症対応マニュアル策定にあたり

首席（健康安全部担当）
岸尾 忍

長い休校期間を経て、子どもたちや保護者様との面談が5月末に実施できることになりました。それに合わせて、保護者様の気持ちに寄り添い、子どもたちを安全に迎えるため、茨木支援学校のための対応マニュアルの策定を進めることにしました。そこで、初めに私たちは茨木支援学校の児童生徒全員のことを思い浮かべました。次に教育活動を再開するにあたり、大切にしたいこと、不安なこと、わからないこと等々…列挙するところからスタートしました。その上で大阪府における専門家会議の内容や大阪府教育庁からの通知や指導を基に、試行錯誤を何度も重ねながら、現在のマニュアルに至っています。

今後は少しずつステップを踏みながら、安心安全を第一にしながらの登校はもちろん、心のふれあいを大切にしたい授業や支援を行えるよう、マニュアルの随時更新を続けていきます。現在も対応は手探り状態であることに変わりはありません。しかし、学校三師の先生方を中心とした学校保健委員会の皆さんと連携することで、自信を持って歩みを進めて参りたいと思います。

「コロナと共存する新しい生活様式・学校教育活動」を志向し、「チーム茨木」で感染症対策に取り組んで参ります。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



茨木支援学校マスコットキャラクター
ふわりちゃん（感染防止啓発 Ver.）